

新たな運営ビジョン策定に向けた検討

1. 北区飛鳥山博物館の運営ビジョン

1) これまでの運営ビジョン

① 平成 17 年（2005）策定「北区飛鳥山博物館のあり方」

- ・開館以来の利用実態を踏まえた運営ビジョン

ミッション 「知のバザール～モノ・コト・ヒトの出会いの場」の実現

博物館を「知のバザール（市場）」と位置づけ、モノ（資料）・コト（情報）・ヒト（区民を中心とする全ての利用者）が出会い交流する場となるよう、多種多様化するニーズに応え、生涯学習活動を強力にサポートし、活気に満ちた知的交流の場として、人びとから望まれる博物館となることを目指したもの。

活動方針 6つの「こうかん」の具現化

- a 好感：心地よい環境を整え、モノ・コト・ヒトの出会いの場となります。
- b 交換：知識や体験をともに得て、ともに分かち合います。
- c 交歓：知識を媒介に発見・感動・楽しさ・喜びをともに分かち合います。
- d 交感：感性を広げ、地域の環境・風土と積極的に関わっていきます。
- e 巷間：身近な生活や日常性のなかにある歴史・文化をともに考えます。
- f 浩瀚：知識や情報を幅広く集め、知的満足が得られる場とします。

② 平成 26 年（2014）策定「北区飛鳥山博物館のあるべき姿」

- ・「あり方」策定以後の社会状況を踏まえた、新たな博物館の運営ビジョン

ミッション 「人々が共感しあえる博物館」の実現

「共感」をキーワードとして、知る喜びにあふれる、どんな人にも優しい、ぬくもりある博物館となることを目指したもの。

活動方針 「博物館活動を通じた知的感動と共感の分かち合い」の具現化

- a 共感の場としての博物館
- b 共感の場を生み出す博学連携
- c 共感が広がる地域と博物館
- d 人と人が共感しあえる博物館
- e 五感を通じた共感の実現

2) 新たな運営ビジョン策定に向けて

- ・上記②「あるべき姿」を設定してから、10年が経過
本格的な少子高齢社会の到来、コロナ禍を経た社会の変容、職員（学芸員）の段階的退職等を踏まえた、新たな運営ビジョンの策定が必要

【今後のスケジュール】

令和 5 年度～令和 7 年度 検討

令和 7 年度末 新たな運営ビジョンの策定

3) 新たな運営ビジョン案

① ミッション

みんなの“My”^{ミュージアム}博物館ー地域の歴史文化を今と未来に活かすー

博物館業務と文化財保護業務を行う当館独自の運営ビジョン

- ・地域の歴史文化を守り、今と未来に活かすための事業展開を行う。
- ・利用者個人とのかかわりを大切にし、1人1人が「自分の」博物館と思えるような、親しみのある博物館を目指す。

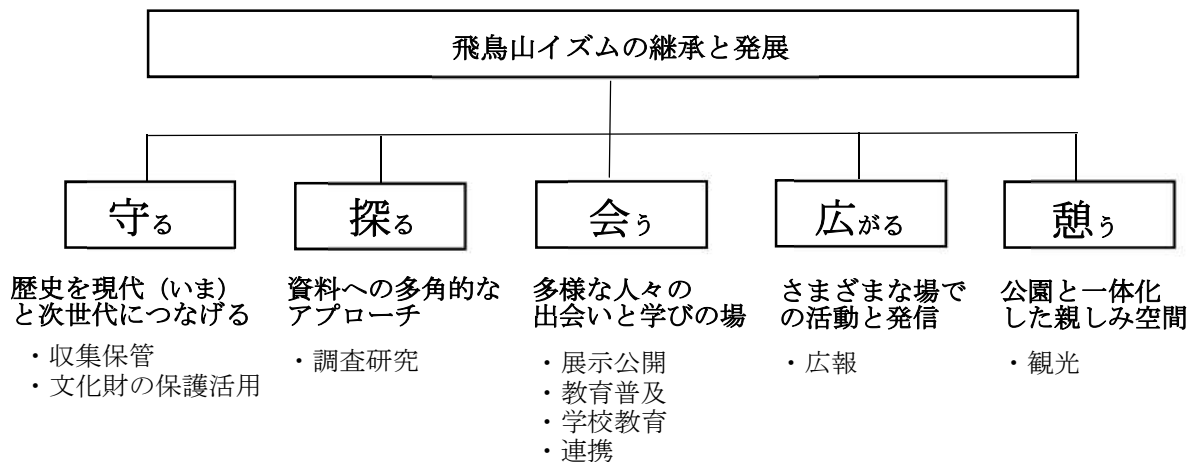
② 運営の柱

「飛鳥山イズム」の継承と発展

※「飛鳥山イズム」とは

開館以来、培われてきた運営姿勢

- ・時代を読み、新しいことに積極的に挑戦するチャレンジ精神
- ・普及事業を重視した博物館活動



運営の柱		達成目標	
守る	歴史を現代（いま）と次世代につなげる	収集保管	地域のクラ
		文化財の保護活用	価値の再発見、文化資源の活用と継承
探る	資料への多角的なアプローチ	調査研究	地域情報のシンクタンク
会う	多様な人々の出会いと学びの場	展示公開	今に生きる展示
		教育普及	ユニバーサルな事業展開
		学校教育	好奇心の育成、感性の醸成
		連携	ゆるやかなコミュニティの構築
広がる	さまざまな場での活動と発信	広報活動	時代に即したネットワーク作り
憩う	公園と一体化した親しむ空間	観光	地域のブランディング力の向上